

2021年初来の運用状況

2021年初来のパフォーマンスはプラス圏に回復

2021年1-3月期、経済回復への期待感や財政拡大見通しの高まりなどを背景に、世界的に金利が大幅に上昇したことを受け、世界の債券市場は軟調な動きとなりましたが、4-6月期は金利が緩やかに低下するなか、安定して推移しています。

本ファンドも一時的に軟調に推移しましたが、金利上昇に落ち着きがみられたことに加え、経済回復期待が組入資産であるハイ・イールド社債に対して特に追い風となったことなどを背景に、2021年初来のリターンは+0.2%\*とプラス圏まで回復し、先進国債券と比べて相対的に良好なパフォーマンスとなっています。

また、着実な利回りの積み上げが下支えとなり、設定来では+8.4%\*のリターンを記録しています(2021年7月9日時点)。

\*年2回決算コースの分配金再投資基準価額の騰落率

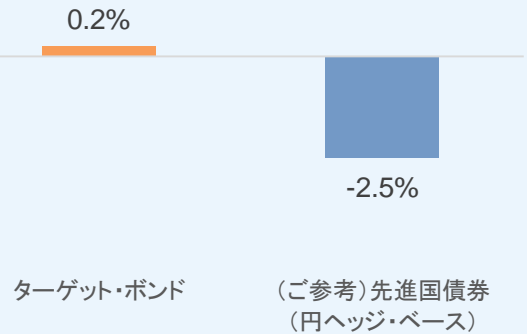
設定来 ターゲット・ボンドの基準価額推移



期間: 2016年6月14日(設定日) ~ 2021年7月9日 出所: ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

2021年初来 米国10年債利回りの推移

2021年初来 本ファンドと先進国債券のパフォーマンス



2021年3月末時点の基本ポートフォリオの資産配分: ハイ・イールド社債35%、新興国債券15%、モーゲージ証券50%

期間: 2020年12月末 ~ 2021年7月9日 出所: ブルームバーグ、FTSE、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

ターゲット・ボンド: GSフォーカス・イールド・ボンド年2回決算コース、先進国債券: FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・ベース)

上記は経済や市場等の過去のデータであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。過去の運用実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。上記の基準価額、分配金再投資騰落率は信託報酬(詳細は、後述の「ファンドの費用」をご参照ください。)控除後のものです。ファンド(分配金再投資)の騰落率は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込み

■ 設定・運用



## 今回のリバランス結果

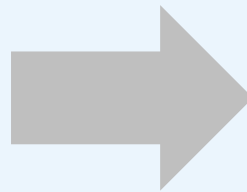
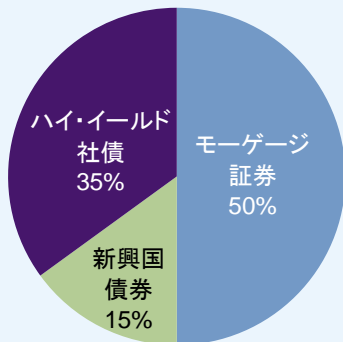
現状維持(モーゲージ証券50%、ハイ・イールド社債35%、新興国債券15%)

本ファンドでは、基本ポートフォリオ(=目標資産配分)の見直しを原則として四半期ごとに行います。

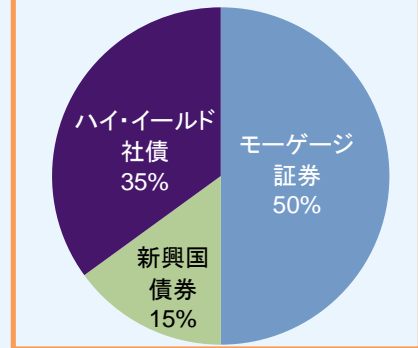
2021年6月末時点のデータを基に資産配分の見直しを行った結果、利回りやリスク水準の観点から、基本ポートフォリオは現状維持となりました。

## 基本ポートフォリオの資産配分

&lt;2021年3月末時点&gt;



&lt;2021年6月末時点&gt;



ポートフォリオの価格変動リスクが最小となるよう、資産配分を原則として四半期ごと(3月末、6月末、9月末、12月末)のデータに基づいて調整します。また、ポートフォリオの配分見直しを決定し、実際のポジション変更が完了するまでには一定の期間を要するため、完了時の平均利回りは配分見直し決定時と乖離する可能性があります。



## 金利上昇局面における債券市場のリターン

本ファンドは、金利上昇局面でも底堅いパフォーマンスとなることが期待される

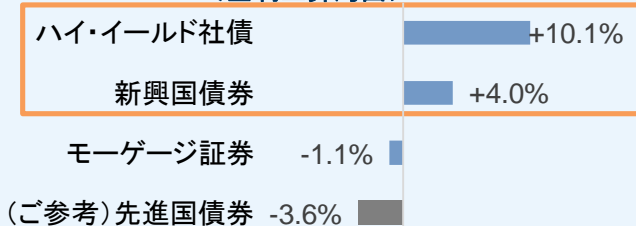
足元、金利上昇には落ち着きがみられていますが、今後再び上昇傾向となる可能性があります。

一般的に、金利上昇は債券市場に対して重石となる一方、金利上昇の要因となりうる経済回復は、ハイ・イールド社債や新興国債券に対して特に追い風となる傾向がみられます。

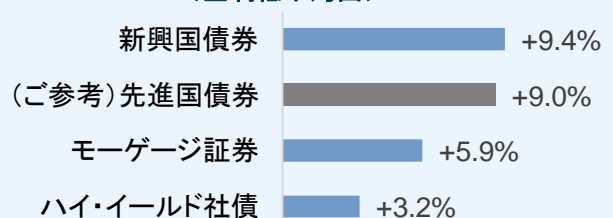
本ファンドでは、経済回復から恩恵を受ける債券も組み入れており、金利上昇局面でも底堅いパフォーマンスとなることが期待されます。

## 金利上昇局面と金利低下局面の各資産の平均リターン(年率、円ヘッジ・ベース)

&lt;金利上昇局面&gt;



&lt;金利低下局面&gt;



期間:2000年12月末~2021年6月末 出所:ブルームバーグ、FTSE、JPモルガン、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

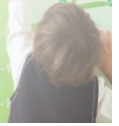
金利上昇/下落局面は米国10年債利回りを基に判定。四半期データを基に算出。

ハイ・イールド社債:ブルームバーグ・パークレイズ米国ハイ・イールド社債インデックス、新興国債券:JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ダイバシファイド、モーゲージ証券:ブルームバーグ・パークレイズ米国証券化商品インデックス、先進国債券:FTSE世界国債インデックス(除く日本)

上記は経済や市場等の過去のデータであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。過去の運用実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込み

■設定・運用

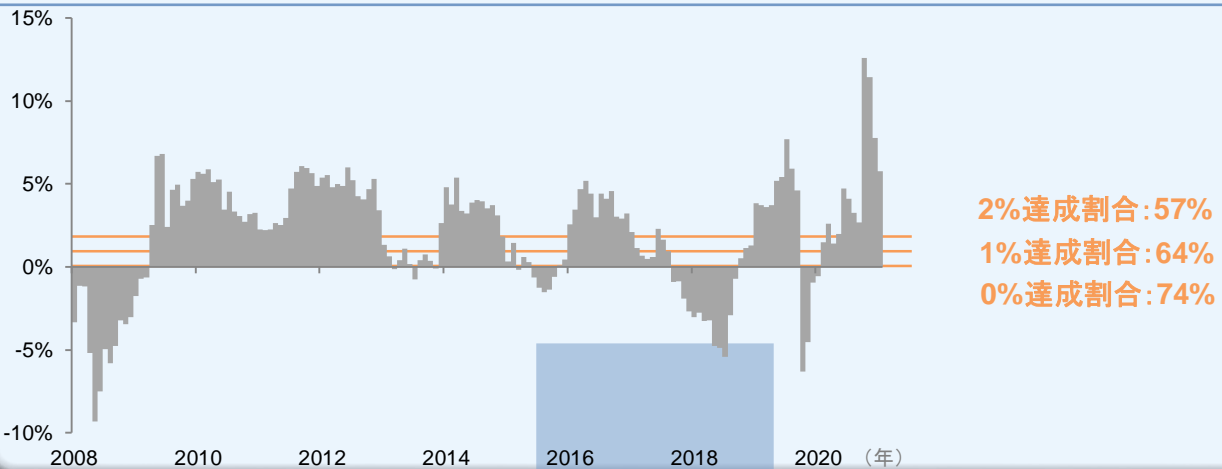


<ご参考>長期投資の意義

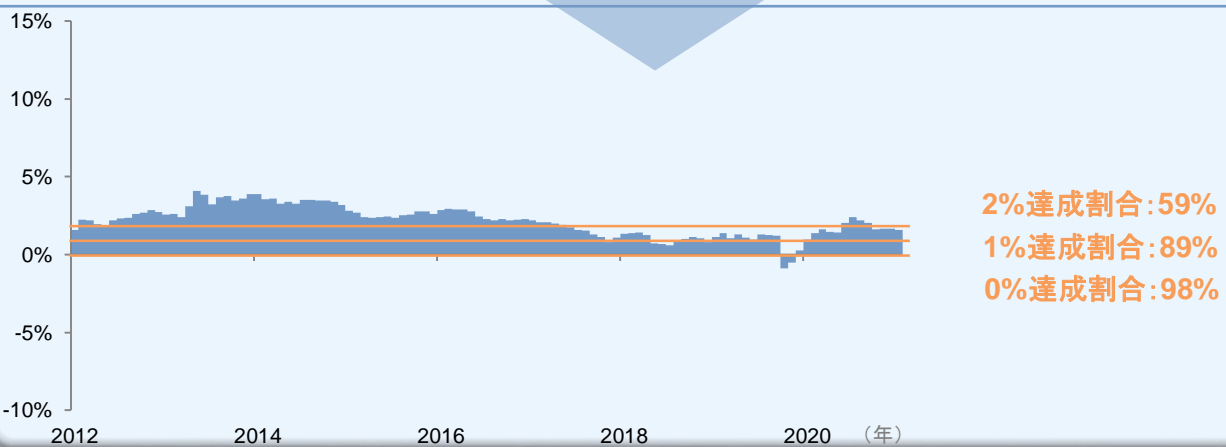
長期で投資するほどリターンは安定化する傾向

ボラティリティ(変動性)の高い環境のなか、今後も一時的に基準価額が下落する局面も想定されます。しかし、時間を味方につけた「利回りの積み上げ」が価格変動を吸収することで、長期的には安定したリターンが期待されます。実際に、長期で投資するほどリターンは安定化し、一定水準以上のリターンを達成する割合が高くなる傾向がみられます。

本ファンドの戦略(試算含む、費用控除後)の年率リターン(円ヘッジ・ベース)  
1年間投資した場合



本ファンドの戦略(試算含む、費用控除後)の年率リターン(円ヘッジ・ベース)  
5年間投資した場合



期間: 2007年6月末~2021年6月末 出所: ブルームバーグ、FTSE、JPモルガン、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント  
2016年6月末までは本ファンドの戦略の試算、2016年7月以降はマザーファンドの実績値を使用。試算およびマザーファンドでは、本ファンドの信託報酬年率0.9955%(税込)を控除しています。過去1年間投資した場合の年率リターンは2008年6月末~2021年6月末の各月末時点からの過去1年間の騰落率。過去5年間投資した場合の年率リターンは2012年6月末~2021年6月末の各月末時点からの過去5年間の騰落率を年率化。長期投資の一例として5年間で基準として試算をしていますが、投資期間を変更して試算した場合は結果が異なる場合があります。  
本ファンドの戦略の試算は、情報提供を目的とした、過去の市場データの分析に基づく事後的なシミュレーションの結果であり、本ファンドの運用実績ではありません。また本ファンドの戦略の将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。実績部分は、過去のマザーファンドの実績であり本ファンドの実績ではありません。上記は経済や市場等の過去のデータであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。過去の運用実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込み

■設定・運用



三井住友銀行

株式会社三井住友銀行  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号  
加入協会 / 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

収益分配金に関わる留意点

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

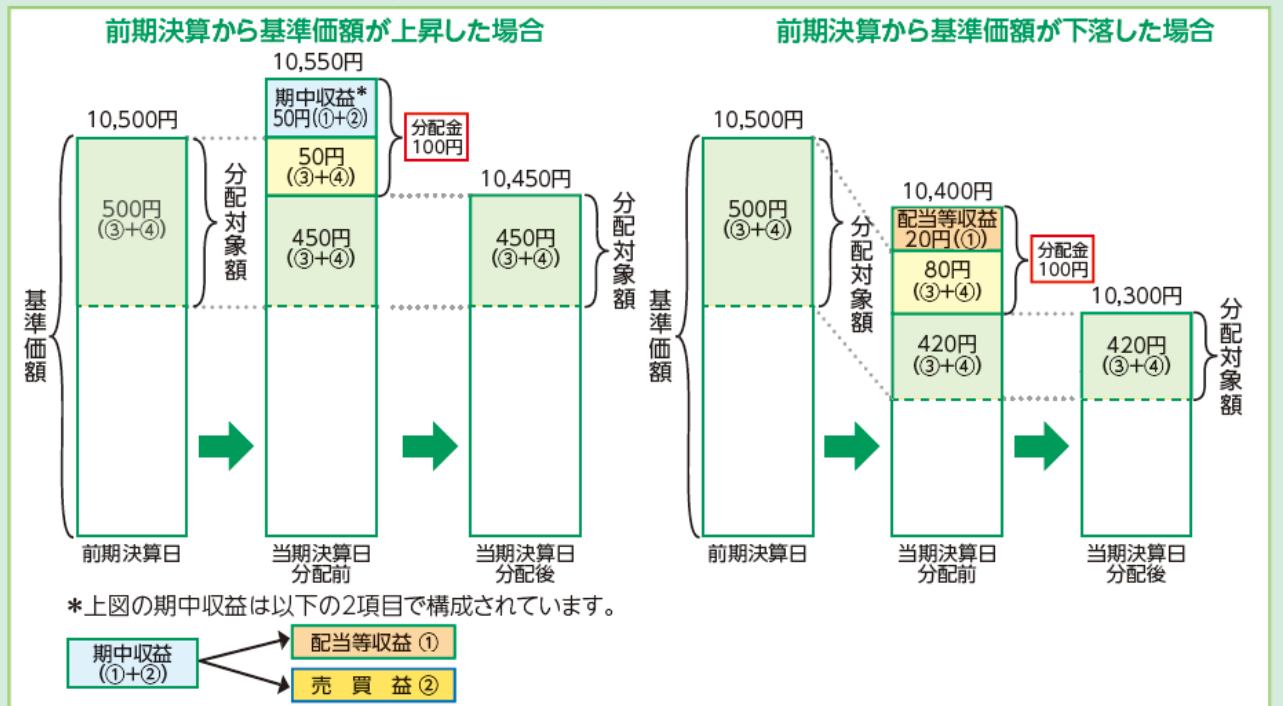
投資信託で分配金が支払われるイメージ



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。分配対象額とは、①経費控除後の配当等収益 ②経費控除後の評価益を含む売買益 ③分配準備積立金(当該計算期間よりも前に累積した配当等収益および売買益) ④収益調整金(信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分)です。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



※上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

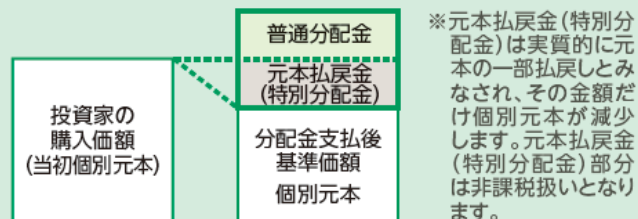
上記のとおり、分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合がありますので、元本の健全性を追求される投資家の場合には、市場の変動等に伴う組み入れ資産の価値の減少だけでなく、収益分配金の支払いによる元本の払戻しにより、本ファンドの基準価額が減価することに十分ご注意ください。

※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

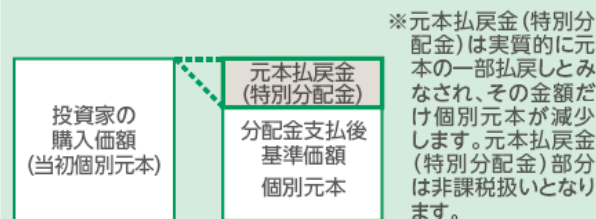
## 収益分配金に関わる留意点(続き)

投資家のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の基準価額の値上がり、支払われた分配金額より小さかった場合も実質的に元本の一部払戻しに相当することがあります。元本の一部払戻しに該当する部分は、元本払戻金(特別分配金)として非課税の扱いになります。

### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資家のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金: 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資家の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

## ファンドの特色

1. 世界のさまざまな債券を組み合わせ、ポートフォリオの組入資産の平均利回りを約3%に維持することをめざします\*<sup>1</sup>。
2. 平均利回りの維持をめざしながら、ポートフォリオの価格変動リスクが最小となるよう、債券の組み合わせを原則として四半期ごとに調整します\*<sup>2</sup>。
3. 原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図ります\*<sup>3</sup>。

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

本ファンドは、ポートフォリオの組入資産の平均利回りを約3%に維持することをめざすものであり、本ファンドのトータル・リターンが一定の水準となることを示唆あるいは保証するものではありません。本ファンドの基準価額の動きは、金利動向、信用状況を含む市況動向の影響を受けるため、短期的または長期的に下落する場合があります。投資元本を割り込むことがあります。また、本ファンドのトータル・リターンからは、運用管理費用(信託報酬)等の費用が控除される点にご留意ください。

\*1 上記の利回り水準は本書作成時点における水準であり、将来変更される場合があります。また、将来の利回りが上記水準に維持されることを保証するものではありません。

\*2 本ファンドは、ポートフォリオの組入資産の平均利回りを維持するために必要なリスク(金利リスク、信用リスク等)を取るため、市場環境によっては、相対的にリスクの高い新興国債券やハイ・イールド社債等の組入比率が高まり、基準価額の変動が大きくなる場合があります。

\*3 為替ヘッジにはヘッジ・コストがかかります。なお、本ファンドの投資対象ファンドにおいてはアクティブな通貨運用を行うため、一定の為替リスクが伴います。

[注意点] 利回り(イールド)とトータル・リターンの違い

- ・利回りとは: 利率(クーポン)とは異なり、債券を満期まで保有した場合、利子収入および償還差損益の1年当たりの収益のことを指します。債券の購入価格が額面より高い(低い)場合、債券の利回りは利率より低く(高く)なります。
- ・トータル・リターンとは: 投資から得られる年間の利益あるいは損失を指し、利回りと価格変動等の組み合わせによって上下します。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込み

■設定・運用

※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。信託財産に生じた損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。

## 主な変動要因

### 債券への投資リスク

債券の市場価格は、金利が上昇すると下落し、金利が低下すると上昇します。金利の変動による債券価格の変化の度合い(リスク)は、債券の満期までの期間が長ければ長いほど、大きくなる傾向があります。

債券への投資に際しては、債券発行体の倒産等の理由で、利息や元本の支払いがなされない、もしくは滞ること等(これを債務不履行といいます。)の信用リスクを伴います。一般に、債券の信用リスクは、発行体の信用度が低いほど大きくなる傾向があり、債券価格が下落する要因となります。債券の格付けは、トリプルB格以上が投資適格格付け、ダブルB格以下が投機的格付けとされています。投資適格格付けと投機的格付けにおいては、債務不履行率に大きな格差が見られます。

債券への投資には、期限前償還リスクが伴います。期限前償還とは予定された定期償還のみならず、元本の一部または全部が予定外の事情によって償還されることをいい、期限前償還によって見込まれた収益が得られない場合があります。

### 新興国債券への投資リスク

新興国市場への投資には、先進国の市場への投資と比較して、カントリー・リスクの中でも特に次のような留意点があります。すなわち、財産の収用・国有化等のリスクや社会・政治・経済の不安定要素がより大きいこと、市場規模が小さく取引高が少ないことから流動性が低く、流動性の高い場合に比べ、市況によっては大幅な安値での売却を余儀なくされる可能性があること、為替レートやその他現地通貨の交換に要するコストの変動が激しいこと、取引の決済制度上の問題、海外との資金決済上の問題等が挙げられます。その他にも、会計基準の違いから現地の企業に関する十分な情報が得られない、あるいは、一般に金融商品市場における規制がより緩やかである、といった問題もあります。

### ハイ・イールド社債への投資リスク

一般に、ハイ・イールド社債は投資適格債券と比較して、債券発行体の業績や財務内容などの変化(格付けの変更や市場での評判等を含みます。)により、債券価格が大きく変動することがあります。特に信用状況が大きく悪化するような場合では、短期間で債券価格が大きく下落することがあり、本ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ハイ・イールド社債は投資適格債券と比較して、債務不履行が生じる可能性が高いと考えられます。

### 為替変動リスク

本ファンドは、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジ・コストがかかります。また、債券運用とは別に、本ファンドが実質的に組入れる投資信託証券では、収益の向上をめざし、アクティブな通貨運用を行います。したがって、為替変動リスクが伴います。為替レートは短期間に大幅に変動することがあります。

### 本戦略に伴うリスク

本ファンドは、実質的に世界のさまざまな債券に投資し、ポートフォリオの組入資産の平均利回りを維持する上で価格変動リスクが最小となるようにポートフォリオを構築しますが、市場動向等によっては、相対的にリスクの高い資産への資産配分が大きくなり、基準価額の変動が大きくなることのある等、ファンド全体のリスクが高まり、投資元本を割り込むことがあります。

## GSフォーカス・イールド・ボンド 愛称:ターゲット・ボンド

販売用資料

毎月決算コース / 年2回決算コース 追加型投信 / 内外 / 債券

Asset Management

## 年初来の運用状況および今回のリバランスについて

※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

## お申込メモ(三井住友銀行でお申込の場合)

購入単位	当初購入の場合 1万円以上1円単位 投信自動積立の場合 1万円以上1千円単位 追加購入の場合 1万円以上1円単位 スwitchingの場合 1円以上1円単位
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する日までにお支払いください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込日から起算して6営業日目から、お申込の販売会社を通じてお支払いいたします。
購入・換金申込不可日	英国証券取引所、ニューヨーク証券取引所もしくはルクセンブルク証券取引所の休業日またはロンドン、ニューヨークもしくはルクセンブルクの銀行の休業日および12月24日(以下「ファンド休業日」といいます。)
申込締切時間	「ファンド休業日」を除く毎営業日の原則として午後3時まで
信託期間	原則として無期限(設定日:2016年6月14日)
繰上償還	各ファンドについて受益権の総口数が30億口を下回ることとなった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎月決算コース: 毎月25日(ただし、休業日の場合は翌営業日) 年2回決算コース: 毎年5月25日および11月25日(ただし、休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎月決算コース: 毎月の決算時に原則として収益の分配を行います。分配金の再投資が可能です。 年2回決算コース: 年2回の決算時に原則として収益の分配を行います。分配金の再投資が可能です。 ※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。
信託金の限度額	各ファンドについて5,000億円を上限とします。
スイッチング	各ファンド間でスイッチングが可能です。 ※スイッチングの際には換金時と同様に換金されるファンドに対して税金をご負担いただきます。くわしくは販売会社までお問い合わせください。
課税関係(個人の場合)	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は少額投資非課税制度(NISA)および未成年者少額投資非課税制度(ジュニアNISA)の適用対象です。配当控除の適用はありません。原則、分配時の普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の譲渡益が課税の対象となります。

## ファンドの費用(三井住友銀行でお申込の場合)

## 投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入時手数料は、購入金額(購入価額[1口当たり]×購入口数)に下記の率を乗じて得た額とします。						
		<table border="1"> <tr> <td>5千万円未満</td> <td>2.20%(税抜2.0%)</td> </tr> <tr> <td>5千万円以上1億円未満</td> <td>1.10%(税抜1.0%)</td> </tr> <tr> <td>1億円以上</td> <td>0.55%(税抜0.5%)</td> </tr> </table>	5千万円未満	2.20%(税抜2.0%)	5千万円以上1億円未満	1.10%(税抜1.0%)	1億円以上	0.55%(税抜0.5%)
5千万円未満	2.20%(税抜2.0%)							
5千万円以上1億円未満	1.10%(税抜1.0%)							
1億円以上	0.55%(税抜0.5%)							
換金時	信託財産留保額	なし						

## 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用(信託報酬)	純資産総額に対して 年率0.9955%(税抜0.9050%) ※2020年8月25日現在、本ファンドの実質的な投資対象である組入れ投資信託証券に運用報酬はかかりません。なお、投資対象ファンドの見直し等により、運用報酬がかかる投資信託証券を組入れる場合がありますが、当該投資信託証券の組入比率は運用状況に応じて変動するため、受益者が実質的に負担する信託報酬の率および上限額は事前に表示することができません。 ※運用管理費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
	信託事務の諸費用	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、印刷費用など信託事務の諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%相当額を上限として定率で日々計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われるほか、マザーファンドの組入れ投資信託証券の信託事務の諸費用が各投資信託証券より支払われます。
随時	その他の費用・手数料	有価証券売買時の売買委託手数料や資産を外国で保管する場合の費用等 上記その他の費用・手数料(マザーファンドの組入れ投資信託証券において発生したものを含みます。)はファンドより実費として間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

上記の手数料等の合計額については、ご投資家の皆さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込み

■設定・運用

※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせのうえ、ご確認ください。

## 投資信託に関する留意点

- 投資信託をご購入の際は、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。これらは三井住友銀行の本支店等にご用意しています。
- 投資信託は、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託は国内外の株式や債券等へ投資しているため、投資対象の価格の変動、外国為替相場の変動等により投資した資産の価値が投資元本を割り込むリスクやその他のリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。
- 投資信託は預金ではありません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。預金保険については窓口までお問い合わせください。
- 三井住友銀行で取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 三井住友銀行は販売会社であり、投資信託の設定・運用は運用会社が行います。

## 本資料のご利用にあたってのご留意事項等

- 本資料はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます。)が作成した資料です。投資信託の取得の申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」等をお渡しいたしますので、必ずその内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 本ファンドは値動きのある有価証券等(外国証券には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。
- 本資料は、当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載された過去の運用実績は、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。投資価値および投資によってもたらされる収益は上方にも下方にも変動します。この結果、投資元本を割り込むことがあります。
- 本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。
- 個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、当該個別銘柄の売却、購入または継続保有の推奨を目的とするものではありません。本資料において言及された証券について、将来の投資判断が必ずしも利益をもたらすとは限らず、また言及された証券のパフォーマンスと同様の投資成果を示唆あるいは保証するものでもありません。
- シミュレーションによるパフォーマンスは一定の仮定に基づいており、運用者の投資判断に影響を与える市場要因や経済要因は考慮されておられません。また、シミュレーションの結果は、市場の過去の結果を用いたモデルを過去に遡って得られたものです。シミュレーションの結果には、実際の運用収益を減少させる運用報酬や取引にかかわる費用、その他の費用を考慮していません。実際の運用成果等とは異なります。
- 投資信託は預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- 投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。
- 投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。
- 本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(I)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(II)再配布することを禁じます。

## 委託会社その他関係法人の概要について

- **ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(委託会社)**  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第325号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会  
信託財産の運用の指図等を行います。
- **ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル(投資顧問会社)**  
委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受けて、投資判断・発注等を行います。
- **株式会社SMBC信託銀行(受託銀行)**  
信託財産の保管・管理等を行います。
- **株式会社三井住友銀行(販売会社)**  
本ファンドの販売業務等を行います。

© 2021 Goldman Sachs. All rights reserved. < 247117-OTU-1443907 >

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込み

■ 設定・運用